

## 事業計画及び成長可能性に関する説明資料

株式会社 フルッタフルッタ

Update 2025.06

## 事業計画及び成長可能性に関する事項の更新趣旨

当社は、2025年6月13日開催の取締役会において、2023年11月13日に決議したEVO FUNDを割当予定先とする第11回乃至第15回新株予約権の発行に係る資金使途の変更を決議したためご説明を行うこと及び年度ごとの定期的な開示を目的として更新することといたしました。

エグゼクティブサマリー	.....	5
会社概要及びビジネスモデル	.....	6
市場環境及び成長機会	.....	15
競争優位性	.....	21
決算ハイライト及び短期事業計画	.....	29
今後の事業計画	.....	39
中長期計画	.....	54
サステナビリティの取組み	.....	65
リスク情報及び対応策	.....	68

# エグゼクティブサマリー

Executive Summary



## 経済と環境が共存共栄する持続可能な社会の実現を目指す

- 1 アグロフォレストリーを中核に据えた持続可能なビジネスモデル
- 2 7期ぶりの営業黒字を達成し、財務体質が改善
- 3 2026年3月期過去最高水準の売上高及び利益の達成を見込み
- 4 現代の主要な市場トレンドを的確に捉え、事業成長を一層促進
- 5 アサイーのパイオニアとしてのブランド確立

# 会社概要及びビジネスモデル

Company Information





## Our Philosophy

# 自然と共に生きる

フルッタフルッタが目指すのは、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会の実現です。アグロフォレストリーはそのソリューションの一つであり、私たちはその恵みであるアマゾンフルーツを革新的な商品にかえてお届けし、アグロフォレストリーの発展に貢献するとともに、お客様に本物の美と健康をご提供してまいります。

## Our Purpose

# 経済と環境が共存共栄する 持続可能な社会の実現

ブラジル・アマゾンに渡った日本人移民が創立したトメアス総合農業協同組合(CAMTA)と出会い、彼らが確立した栽培手法である「トメアス式アグロフォレストリー」(混農林法)に当社の長澤が共鳴したことが創業のきっかけです。

アグロフォレストリーの拡大を促し、荒廃地を緑に変えていきたい。森をつくる農業「アグロフォレストリー」の発展にビジネスの力で貢献し、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会の実現を目指します。



## 会社情報

## 経営陣

## 財務指標

設立 **2002**年

従業員数(1) **31**名

代表取締役社長  
執行役員CEO 長澤 誠

取締役 Michael L.Lerch

社外取締役 鈴木 朗広

売上(2) **2,549**百万円

純利益(2) **270**百万円

売上CAGR(3) **38.5%**

自己資本比率(2) **83.2%**

- (1) 2025年3月期末実績(パート、アルバイトなどの有期雇用含む)  
 (2) 2025年3月期実績  
 (3) 2021年3月期から2025年3月期の年平均成長率







## アグロフォレストリーは 『生物多様性』と『CO<sub>2</sub>削減』を両立する ソリューション

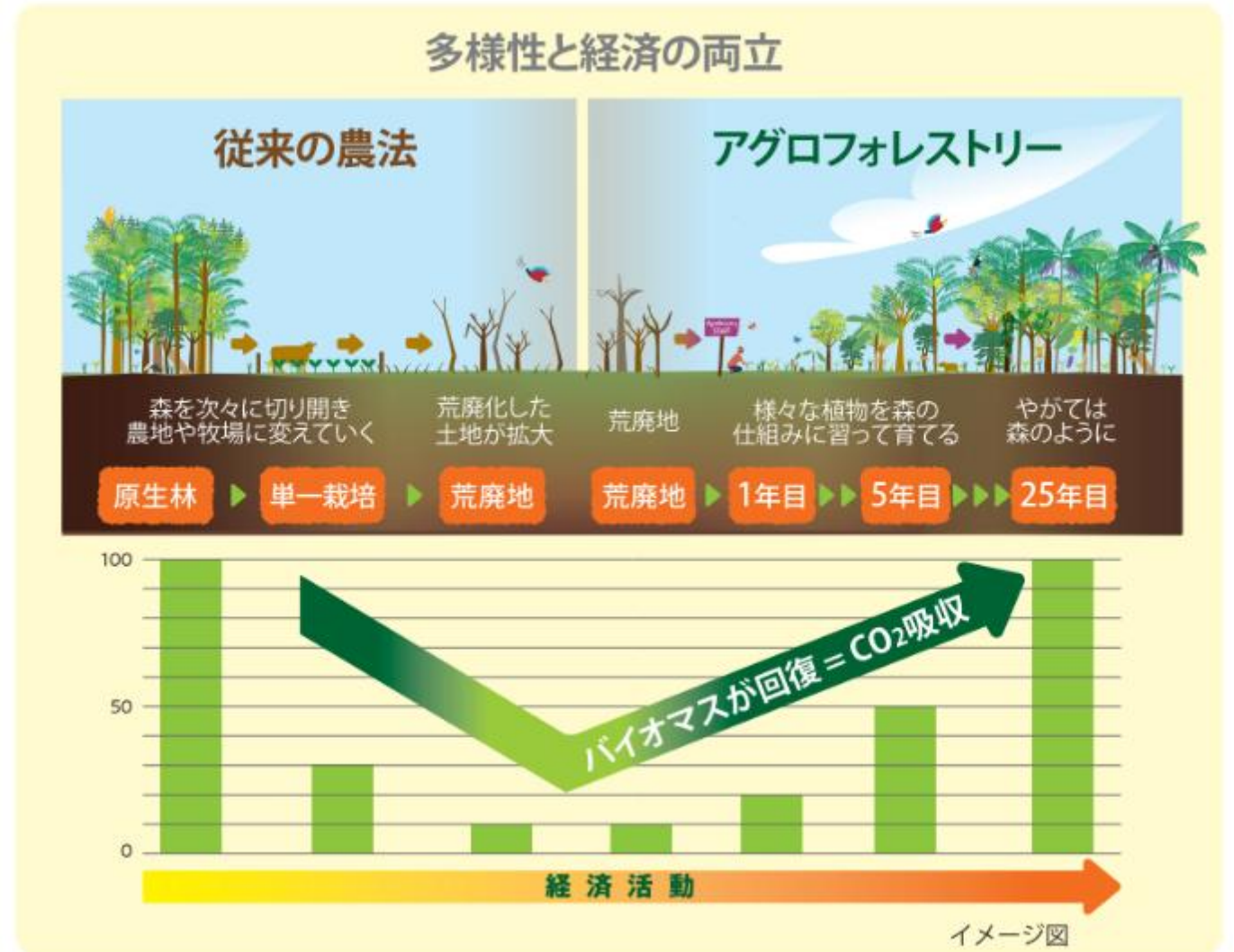
「ネイチャーポジティブ」は、企業・経済活動によって生じる自然環境への負の影響を抑え「生物の多様性を維持する」という従来の発想から大きく踏み込んで、「生物多様性を含めた自然資本を回復させる」ことを目指す新たな概念であり、近年、企業経営において重要性を増しています。



「アグロフォレストリー」は、アマゾンの荒廃した土地に、多様なフルーツや樹木を植えていく”森を作る農業”です。当社は経済の力で環境を再生する「自然資本主義」の実践企業として健康と環境に貢献する事業を推進しています。



**"Agroforestry"**  
「森をつくる農業」



壊さず、加えず、そのままに。

フルッタフルッタの商品は「ナチュラル・新鮮・おいしい・本物」がモットーです。

当社は市場側のインフルエンサーとしてそれを情報発信していくことが大切な使命の一つです。



壊さず、加えず、そのままに





## リテール事業部門(自社ブランド)

天然のサプリメントであるアマゾンフルーツを素材にして、独自のフードテックを使い、「自然の栄養素を壊さず届ける」ポリシーのもと、こだわりの製品を販売しています。  
全国のスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの広範な流通網が一般消費者へのリーチを可能にしています。



## 業務用事業部門

外食チェーンや飲食店、食品メーカーに対して、業務用製品や原料を販売しています。  
冷凍アマゾンフルーツピューレに限らず、高品質な濃縮エキスやフリーズドライ等の加工原料を取り扱っております。  
外食産業では健康志向や環境貢献に対する意識の高まりに伴うアサイーメニュー導入拡大に貢献しています。



## ダイレクトマーケティング事業部門

自社ECやプラットフォームを通じて、自社商品販売や最新の情報発信、二酸化炭素削減量の可視化ポイント制度など、小売店ではカバーしきれないエリアやサービス内容を充実させています。顧客との直接的な関係構築と高収益性を両立させる重要な基盤となっています。

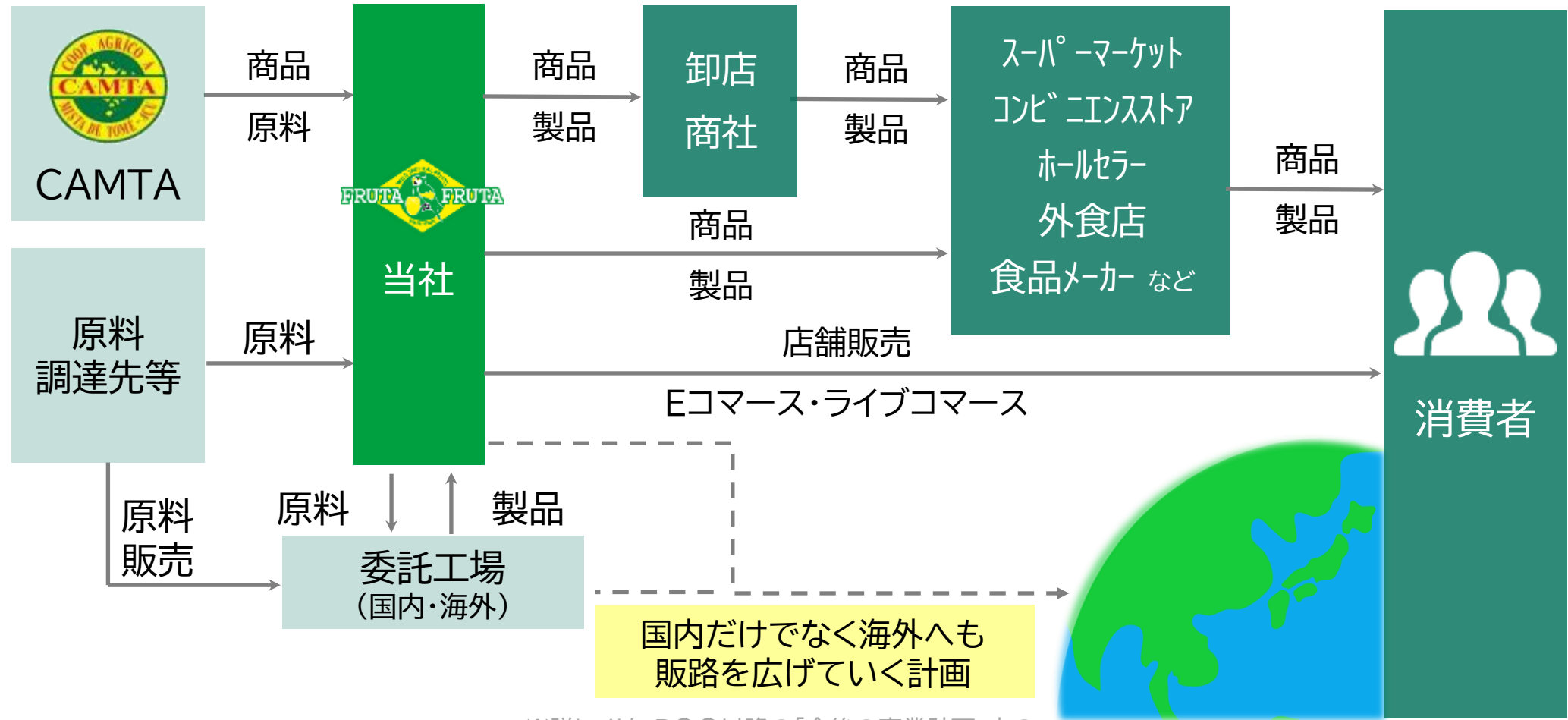


## 海外事業部門

アグロフォレストリーで収穫された産物をESG訴求が実現出来る、アグロフォレストリー原料による付加価値創出を実現させる商品に使用されます。今後、ライブコマースやサステナブルマッチングプラットフォームを活用し、海外市場へもアプローチしてまいります。



CAMTAからアグロフォレストリー産の原料等を輸入し、製品を企画・開発し、販売を展開。  
委託工場で製造した自社製品だけでなく、外食チェーンへの卸、メーカーへの原料販売等を行う。



※詳しくは、P●●以降の「今後の事業計画」内の「アサイーの海外事業展開」を参照ください。





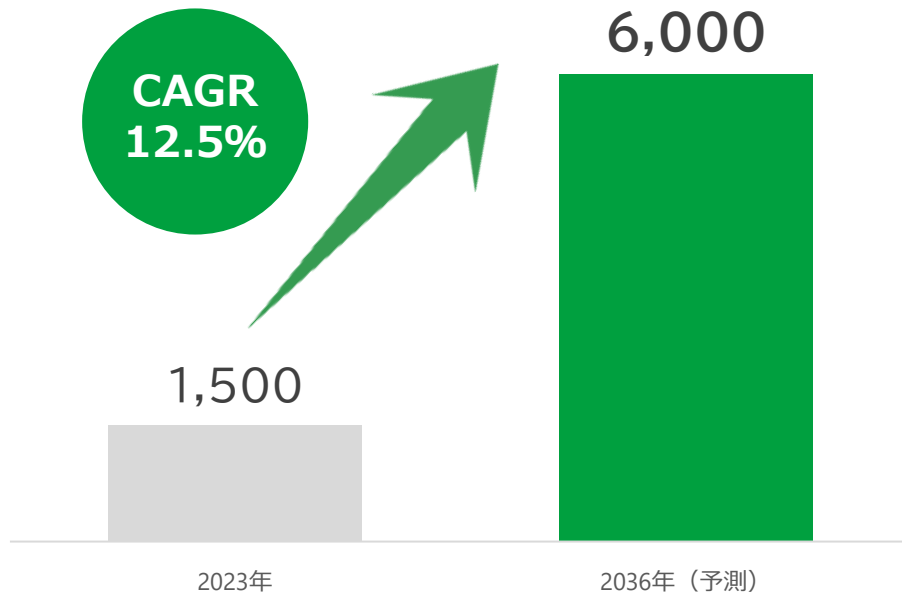
# 市場環境及び成長機会

The Environment Surrounding Us

健康志向、サステナブル消費の世界的な高まりを背景に、アサイー市場は著しい成長が予測されている。  
パイオニアとしての地位と独占的供給、製品力、販路を背景に、過半数以上の高いシェアを維持・拡大可能と推測される。

## 世界のアサイー市場の成長予測 (1)

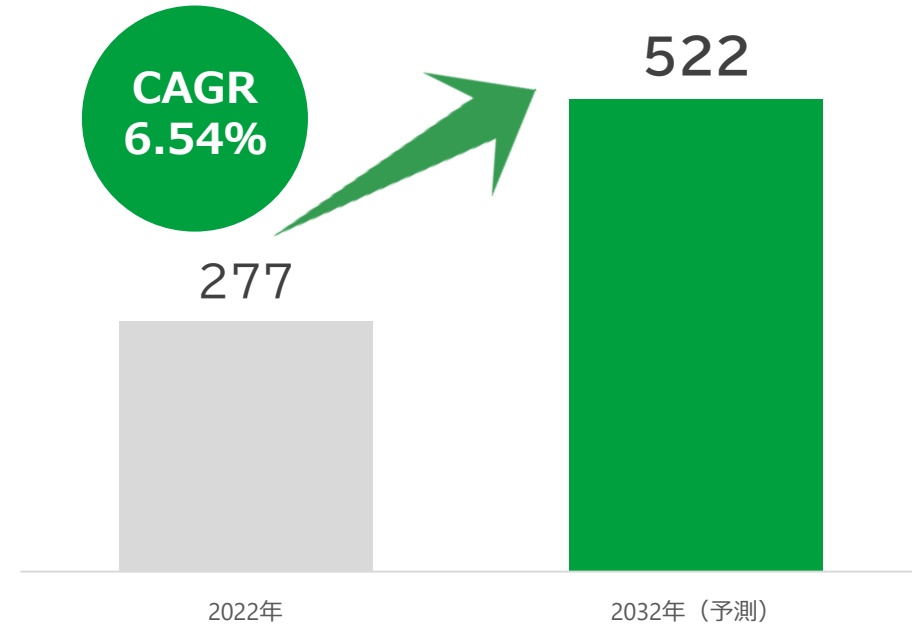
(単位:億円)



2036年までに**約4倍の40億ドル**へ成長見込み。  
特に日本を含むアジア太平洋地域は、健康意識の高まりと所得水準の向上を背景に、最も高い成長率を示すことが期待されている。

## 日本の冷凍フルーツピューレ市場予測 (2)

(単位:億円)



アサイーの位置づけ、アサイーボウルなどの独有用途を考慮すると、アサイーのピューレ市場は既存のフルーツピューレ市場を**超えて拡大する可能性**を秘めている。

※1 SDKI.Inc .世界のアサイーベリー市場に関する調査レポート: 予測2024-2036年. <https://www.sdki.jp/reports/acai-berry-market/104521>

※2 SPHERICAL INSIGHTS . 日本冷凍フルーツピューレ市場 規模、シェア、COVID-19の影響分析、用途別(乳製品およびベビーフード、菓子、ベーカリー業界、料理用途)、流通チャネル別(スーパーマーケット/ハイパーマーケット、オンラインストア、専門店)、および日本の冷凍フルーツピューレ市場洞察予測2022~2032 .

<https://www.sphericalinsights.com/jp/reports/japan-frozen-fruit-puree-market>

# アサイー需要を加速させる主要消費者トレンド

自宅で健康的な食事やライフスタイルを取り入れる傾向が加速した。  
**手軽に調理できるアサイーボウル**などがその代表例。  
 このトレンドは**アサイーの家庭内消費を日常的なものへと変容**させている。



健康への意識が高まる一方で、食事の楽しさや満足度も重視される傾向にある。  
 アサイーは、その豊富な栄養素と自然由来の特性から、「**罪悪感なく**」**摂取可能な健康食品**として、特に若年層や健康に配慮する消費者層から高い支持を得ている。

環境保護や社会貢献への意識が、特に**Z世代を中心に強く反映された消費行動**である。  
 フルッタフルッタのアグロフォレストリーへのコミットメントは、この**倫理的消費志向を持つ消費者層に深く共鳴し**、ブランド選択の重要な要素となっている。

近年の健康食品に関する問題は、消費者の製品選択において、**壊さず、加えず、そのままであることへの信頼度**を一層高めている。  
 フルッタフルッタの商品は「**ナチュラル・新鮮・おいしい・本物**」をモットーとしており、この特性から有利な立場と認識される。

2025年COP30の開催地がアマゾンに決定しており、アグロフォレストリーが国際的に注目されつつある。当社はCOP30開催前にアグロフォレストリーを啓蒙する取組みを進めていく。

## 2024年 G20 リオデジャネイロ

## 2025年11月 COP30 ベレン



Newsweek article snippet: 来年G20議長国のブラジル、世界的課題に「重要な役割」=イエレン氏



NHK article snippet: 2025年COP30 ブラジル北部のアマゾン地域で初開催へ



Map of Brazil highlighting the Amazon region (法定アマゾン地帯) and Belém (ベレン). Includes CAMTA logo.

※アグロフォレストリーの啓蒙に関する具体的取組み事例については、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。

日系社会を始めとする人的交流に支えられた歴史的な友好関係を強調し、更なる二国間関係強化の指針を記したものとして、日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)を発出。

(1)

## 日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)



(2)

令和6年(2024年)5月  
外務省南米課

### 背景・意義

◆ルーラ大統領は環境・気候変動対策を政権の最重要課題の一つと位置づけ(2025年のCOP30のブラジル・ベレンでの開催や2023年8月のアマゾン流域8か国首脳会合の開催等)。2050年までのネットゼロ及び2030年までアマゾン熱帯雨林の違法伐採ゼロを目標に掲げている。

◆日本は、先進的レーダー衛星やAI技術を活用し、アマゾンの違法伐採対策等に協力。2022年7月、両国間で気候変動分野に関する宣言書に署名。2023年5月の日ブラジル首脳会談(於:広島)において、**両首脳は、環境・気候変動対策において緊密に連携していくことで一致。**

◆環境・気候変動分野における両国の協力のポテンシャルは高い。**日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)**は、「**環境・気候変動対策**」及び「**持続可能な開発**」を軸として、日本の技術活用による協力を通じて「**戦略的グローバル・パートナーシップ**」の一層の強化を図るもの。

「ブラジルの推進する劣化農地改良事業も含め、持続可能な農業の実現に向け協力を深めていく。」と明言され、取組みの中にはアグロフォレストリーも含まれる。

(1)外務省・環境・気候・持続可能な開発及び強じんな経済に関するブラジルと日本のパートナーシップに係る共同声明(日ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI))。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664790.pdf> . (2024-5-3)

(2)外務省・「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)」概要。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664788.pdf> . (2024-5-3)

### GPIにおける取組

#### (1)環境・気候変動協力

- アマゾン基金への拠出(4.11億円(300万ドル))
- 十全性(質)の高いイニシアティブの推進
- 海外投融資を活用した事業の推進 等



アマゾンの違法伐採モニタリング



アグロフォレストリーの様子

#### (2)持続可能な開発

- 地球温暖化対策・食料安全保障を目指した劣化農地の畑地転換
- アグロフォレストリー(持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全を確保する森林農法)
- 精密・デジタル農業( ICT等の技術を活用した農業生産の効率化・持続可能な農業の促進)
- 水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力



アマゾンで生まれた、自然と共に生きる農業。人間の手で壊した自然環境は、人間の手できちんと修復する。GPIの流れに沿う形で、当社大切なテーマを実現へと取組みを進めていく。

(1)

(2)

## 日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)

### 環境・気候変動対策

### 持続可能な開発

#### ◆ アマゾン基金への拠出

アマゾンの森林保護を目的としてブラジル政府が設立した同基金への拠出(4.11億円(300万ドル))を通じて、森林の管理・監視、生態学的・経済的ゾーニング、土地利用計画、土地所有権の正規化、伐採地の回復等の分野のプロジェクトを支援。

#### ◆ 十全性(質)の高いイニシアティブの推進

温室効果ガス排出削減への貢献の重要性を認識しつつ、気候変動対策におけるパートナーシップの強化の可能性を模索。

#### ◆ 防災における協力

強靱な街づくりのための土砂災害構造物対策能力向上への協力。

#### ◆ 三角協力

アマゾン流域地域におけるパイロットプロジェクトとして、地球観測データキューブ等のリモートセンシング技術を活用した大洋州諸国向けの研修を実施。

#### ◆ 海外投融資を活用した事業の推進

「気候変動対策投資推進事業」を始めとする、TSUBASAプログラム等の民間ファンドへの出資を通じた気候変動対策分野の新興企業への出資。

#### ◆ 劣化農地改良

土壌改良等による豊かで包括的な循環経済型農村社会の実現に向けて協力。日本は「セラード農業開発協力(PRODECER)」(1979年～2001年)を通じてブラジルの食料増産、地域開発に貢献した実績あり。

#### ◆ アグロフォレストリー(SAFTA)

1970年代にブラジル北部の日系農家が開発した、胡椒や熱帯果樹、樹木栽培を組み合わせた森林農法。日本は1974年から2021年、専門家派遣、熱帯果樹のジュース加工工場整備等の支援を実施。本事業を通じて、持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全の確保に向けて協力。

#### ◆ 精密・デジタル農業共創プロジェクト

日・ブラジル間の官民連携を通じた各分野の実証事業や農業データプラットフォームの整備を支援。

#### ◆ エネルギー分野における協力

水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力。

政府はアグロフォレストリーを通じた持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全の確保を図る。

当社も消費の力を最大化してアグロフォレストリーの維持発展に貢献する取組みを進めていく。

(3)

(1)外務省・環境・気候・持続可能な開発及び強じんな経済に関するブラジルと日本のパートナーシップに係る共同声明(日ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI))。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664790.pdf> . (2024-5-3)

(2)外務省・「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)」概要。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664788.pdf> . (2024-5-3)

(3)アグロフォレストリーの維持発展に関する具体的取組み事例については、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。





# 競争優位性

Competitive Advantage

# 市場を創出したパイオニアとしての卓越したブランド力

2002年の創業以来、日本にアサイーの概念を導入し普及を牽引。  
20年以上にわたる事業経験と市場でのパイオニアとしての実績は、消費者からの圧倒的なブランド認知と市場信頼を形成。



アサイー関連商品

**13** 商品

アマゾンフルーツ商品

**11** 商品

アジアシリーズ商品

**5** 商品

※2025年6月時点HP掲載商品数をカウント。

※各商品の詳細は当社公式HP 商品情報をご参照ください。 <https://www.frutafruta.com/products/>



ブラジルのアマゾンフルーツサプライヤー、CAMTA(トメアス総合農業協同組合)とアジアにおける独占輸入契約を締結。高品質なアサイーの安定供給と厳格な品質管理体制が維持され、競合他社が容易に追従できない優位性を確立。



CAMTAはトメアスの日本人移住者がアマゾンという辺境の地で経済的に自立するために1931年に創立された農業組合です。

CAMTAは日本人特有のきめ細やかな作業を得意とし、アマゾンにおいて栽培から製造まで一貫生産できる唯一のメーカーです。

また、世界ではじめてアサイーの量産に成功し、それまでアマゾンの産地でしか食べられなかったアサイーの遠方への輸送を可能にしました。



※CAMTAの詳細については当社公式HPパートナーCAMTAとその町をご参照ください。  
<https://www.frutafruta.com/fruit/camta/>

『TCFD』の生物多様性版とも言われる『TNFD』への取組みが企業活動に求められる状況。  
アグロフォレストリーの強みを活かし、CO<sub>2</sub>削減及び生物多様性の回復に、事業での取組みを通じて貢献。  
環境と共存した利益の追求で、自然資本主義の実現へ。

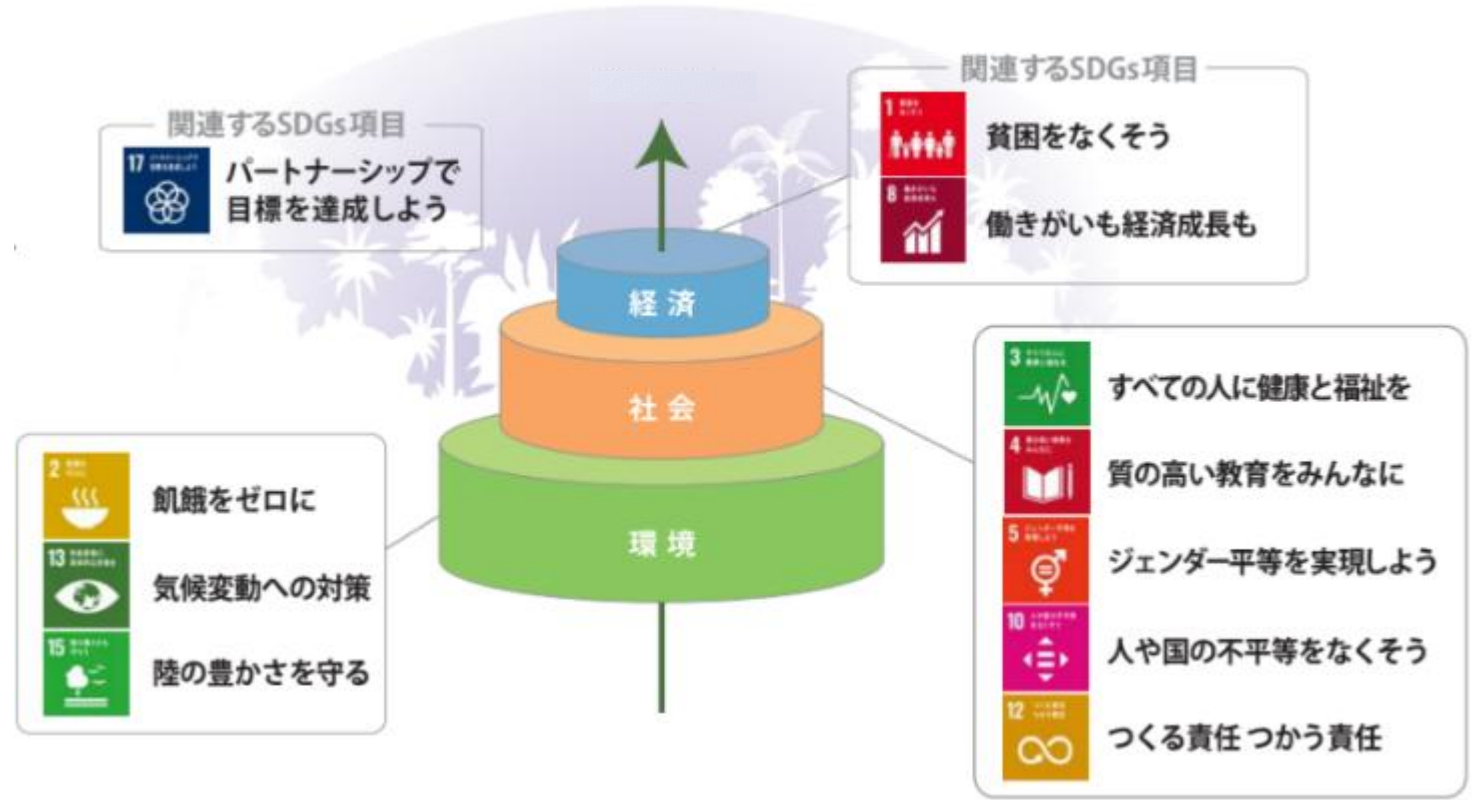


※アグロフォレストリーに関する事業での取組みについては、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。



# アグロフォレストリーのメリット

アグロフォレストリーのメリットは大きく「環境」「社会」「経済」の3つ各側面からサステナブルな農業として期待されている



▶ **経済活動と環境を両立できる持続可能な農業**

# アグロフォレストリーによる環境価値の提供

CO2削減マークは、飲料業界において初の試みであり、環境価値を具体的な形で可視化。サステナビリティ志向の消費者や企業パートナーからの強い支持を獲得し、製品の機能的価値を超えたブランド価値を創造する強力な差別化要因として機能している。

2022年6月～CO<sub>2</sub>削減マークを作成し、自社EC内で会員プログラムを実施。

商品ごとのCO<sub>2</sub>削減量の算出を行い、2023年3月から商品に表示開始。



**CO<sub>2</sub>削減 360g**

原料1gあたりの削減量  
※数値は製品に表示した場合のイメージです



サステナブルな消費への関心の高まりから、地球環境や社会に配慮し、持続可能な食のあり方を追求したメニューが国内外の多くの企業に積極的に取り入れられ、**広範かつ戦略的な販売経路が確立**し多様な顧客層へのリーチを可能にしている。

カッパクリエイト社 かつぱ寿司での『サステナスイーツ』にCo2削減マークを使用



※<https://www.kappasushi.jp/cp/2025/acai>

タリーズ社ではカフェチェーンとしていち早く“アサイー”に注目し2005年からメニュー導入



※[https://www.tullys.co.jp/company/pressrelease/2025/05/2025\\_fzn\\_acai.html](https://www.tullys.co.jp/company/pressrelease/2025/05/2025_fzn_acai.html)

市場での成長を加速させるため、アサイーの機能性研究による新たな付加価値を見出していく。研究成果を基にした新商品開発への継続的な取り組みは、競争の激しい健康食品市場において、常に市場をリードする製品イノベーションを可能にしている。

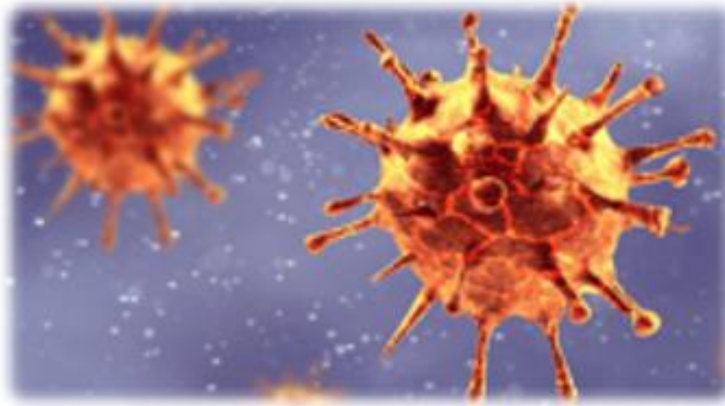
## 造血機能性研究



マウスにアサイーを摂取させた結果、造血ホルモンのエリスロポエチン(EPO)の分泌が促され、赤血球数が増加することが判明

原因物質の特定へ

## 抗炎症研究(トロント大学)



当社アサイー原料を使った細胞試験において、NLRP3誘発性炎症を抑制する効果が認められたことを発表

これまでに引き続き  
長期目線で働きかけを継続

※トロント大学独自の研究につきましては、2022年6月24日開示の「トロント大学によるアサイーの臨床試験終了のお知らせ」以降、現時点で試験に関する発表はございません。

## プラントベースフード研究



代替肉品質改善を目的とした  
有効成分に関する特許出願 (1)

2022年8月、一般食材への  
応用による発展可能性。  
他社製品への採用事例にもつながる (2)

(1)2022年8月1日付 <https://www.frutafruta.com/news/7618/> (2)U.S.M.H社「GREEN GROWERS Meal」へ採用

# 決算ハイライト及び短期事業計画

## Financial Highlight and Short Term Design



売上高は前年同期比226.2%となり、営業利益以下の各利益も黒字化し、利益体質への変革を達成いたしました。

## 売上高

**2,549** 百万円

前年  
同期比 **226.2** %

## 営業利益

**229** 百万円

前年  
同期比 **+492** 百万円

## 経常利益

**234** 百万円

前年  
同期比 **+541** 百万円

## 当期純利益

**270** 百万円

前年  
同期比 **+577** 百万円

### － ポイント

- ① リテール事業、業務用事業、ダイレクトマーケティング事業のいずれの事業部門においても大きな伸びを示す。
- ② 主力のアサイー関連製品の販売拡大に注力。採算性が高い商品を販売強化する施策が奏功。
- ③ 商品へCO<sub>2</sub>削減マーク記載をしていたことにより、大手外食チェーンでのサステナブルなスイーツへ当社のアサイーが継続採用。地球環境に貢献する付加価値型原料としても注目を集め支持を獲得。

アサイー関連商品が引き続き好調であり、大手外食企業での原料採用が進んだこと及び自社ECの売上拡大が大きく貢献。新規収穫のアサイー原料が国内へ到着し、十分な供給量の回復により、需要増加に応えたことで黒字化を達成。

	2024年3月期		2025年3月期		対前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	1,136	100.0%	2,549	100.0%	+1,412	124.2%
売上総利益	356	31.3%	960	37.6%	+603	169.4%
販売費及び一般管理費	619	54.5%	730	28.6%	+110	17.9%
営業利益及び営業損失(△)	△263	-	229	9.0%	+492	-
経常利益及び経常損失(△)	△307	-	234	9.1%	+541	-
当期純利益及び当期純損失(△)	△306	-	270	10.6%	+577	-

※2025年3月期実績の当期純利益には、法人税等調整額75百万円を含みます。

業務用事業部門が前年同期比271.2%と大幅伸長し、通期で最大売上部門となりました。  
 リテール事業部門、DM事業部門前年同期比199%と大きく伸長し売上高増収に貢献。

(百万円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期実績	前年同期比 (増減額)
売上高	1,136	2,549	224.2% (+1,412)
リテール	548	1,096	199.8% (+547)
業務用	417	1,132	271.2% (+714)
DM	151	301	199.0% (+150)
海外	18	18	△1.4% (△0)

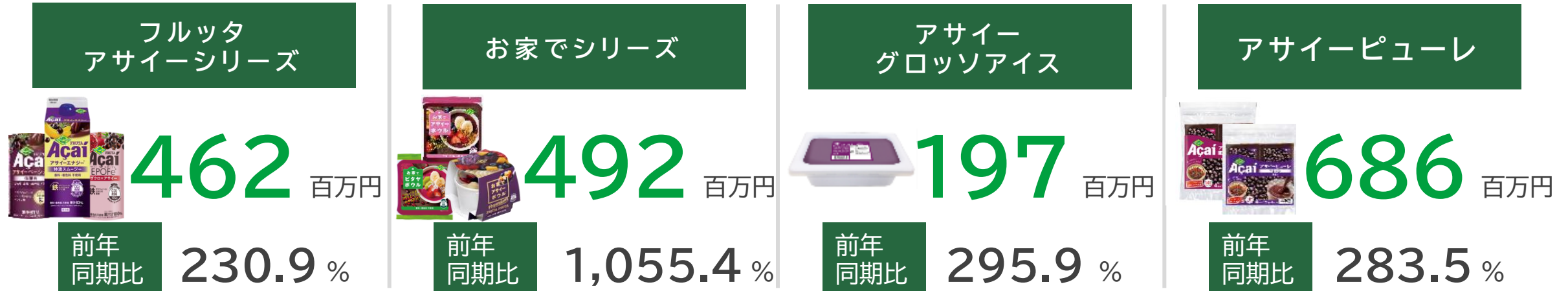
- 家庭で簡単にアサイーを楽しむことを促進
- 新たに『ピタヤスムージー』を小売店、量販店で順次発売開始

- 大手カフェチェーンやレストランチェーンに採用
- サステナブルフードとしてCO<sub>2</sub>削減に対する意識の高まり

- 「お家でピタヤボウル」も、健康効果が期待される注目商品となる
- 「お家でアサイーボウル7パック」が売上高を牽引



商品をお得にお届けする継続購入施策などを行っている自社ECサイトで、シリーズ大ヒット商品である「お家でアサイーボウル」を7日間セットにした「お家でアサイーボウル7パック」が貢献し、お家でシリーズは前年同期比1,055.4%と大伸長。



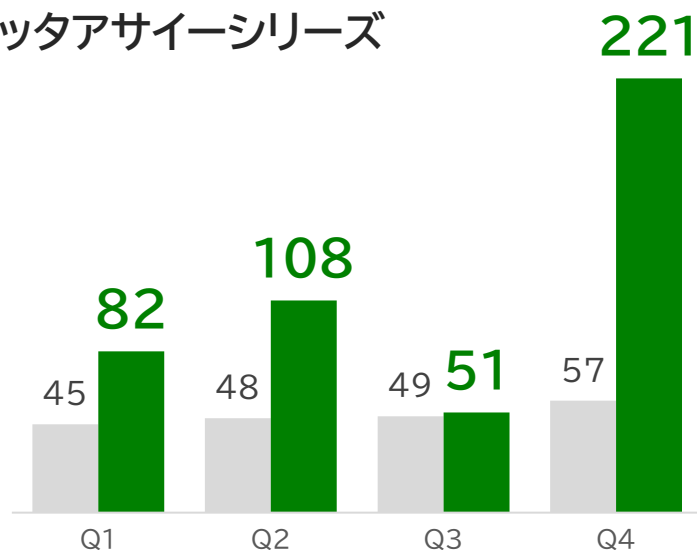
－ ポイント

- 1 アサイーをさらに日常の中に取り入れる動きを加速させる取り組みとして、アサイーとヨーグルトの組み合わせを積極的に提案しクロスセルの販売施策を展開。
- 2 当社事業の根幹であるアグロフォレストリー原料及び商品を各企業が採用する関心の高さが表れる。
- 3 自らの行動で環境や社会課題の解決に貢献するといった志向が強いZ世代のサステナブル・エシカル消費が関係しており、消費のあり方を変えようとする力が後押しとなる。

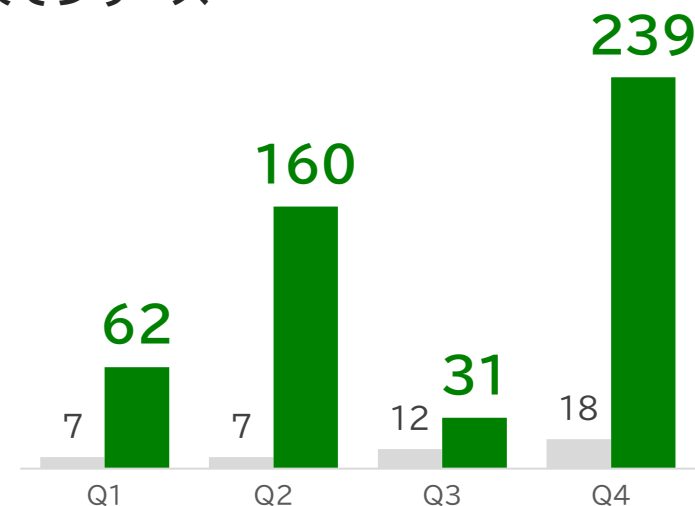
2024年3月期 2025年3月期 (単位:百万円)



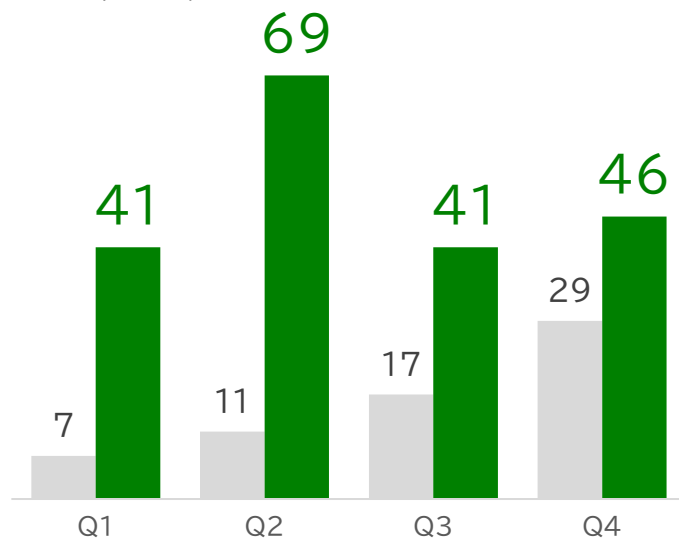
## フルッタアサイーシリーズ



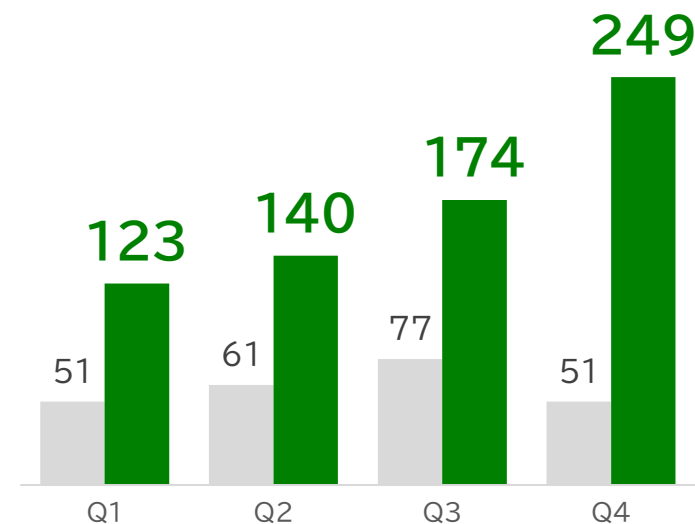
## お家でシリーズ



## アサイーグロッソアイス



## アサイーピュール



売上高増加による営業キャッシュフローの改善並びに第15回新株予約権の権利行使及び行使完了により総資産が1,903百万円増加。自己資本比率も83.2%と24.1pt増加いたしました。

(百万円)	2024年3月末	2025年3月末	増減	主な理由
流動資産	1,015	3,404	+2,388	現金及び預金並びに棚卸資産の増加
現金及び預金	337	1,886	+1,509	営業CFの改善、新株予約権行使による増加
固定資産	629	143	△485	投資有価証券(株式会社REVOLUTIONの普通株式)の売却による減少
総資産	1,644	3,547	+1,903	
流動負債	665	588	△76	借入金の減少、未払法人税等の増加
固定負債	3	3	0	
純資産	975	2,955	+1,980	新株予約権行使による資本金の増加
自己資本比率	59.1%	83.2%	+24.1pt	

財務体質の強化に一定の成果が得られつつあり、2018年3月期より7期ぶりに継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。

### 売上高の増加

(2025年3月期 実績)  
2,549百万円

(前年同期比) **156.8%**

(2026年3月期 予想)  
**4,000** 百万円

### 営業利益の増加

(2025年3月期 実績)  
229百万円

(前年同期比) **142.5%**

(2026年3月期 予想)  
**400** 百万円

### 資金調達※

第12回、第13回、第14回  
新株予約権の行使により  
今後見込まれる資金調達額

**+5,998** 百万円

#### － ポイント

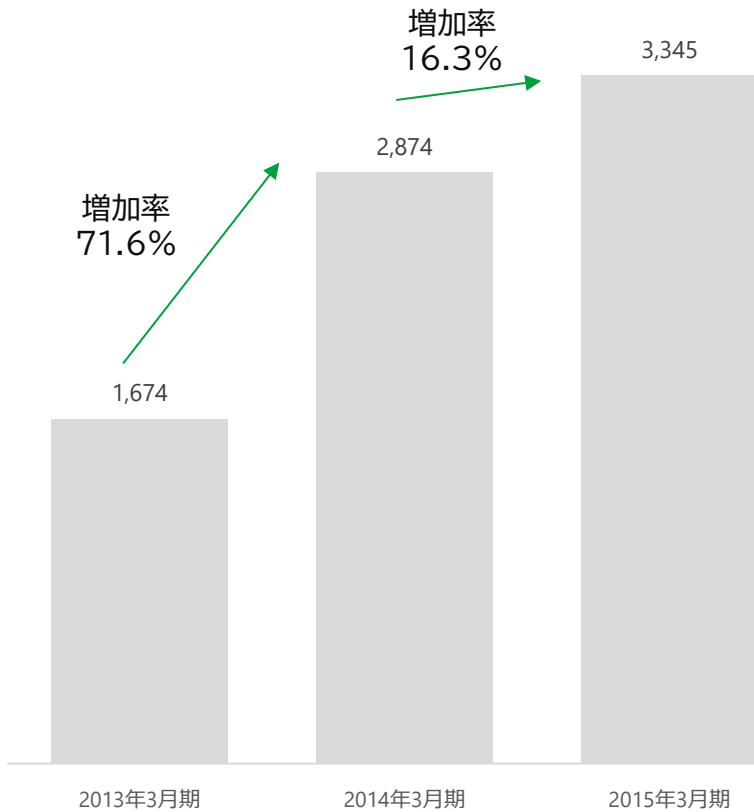
- ① 2025年3月期は当期純利益270百万円を計上。  
継続的な営業損失の発生を解消し、**利益体質への転換を達成**。
- ② 2025年3月期の現金及び預金は1,886百万円となる。  
残存する新株予約権の行使による資金調達も見込めるため、**財務体質の強化に一定の成果**を得る。
- ③ 2026年3月期における業績予想は、売上高4,000百万円、営業利益400百万円、当期純利益300百万円となり、**資金繰り上の懸念解消や収益改善が見込めるため重要な不確実性は認められないと判断**。

※2025年6月13日公表の「資金用途の変更に関するお知らせ」にて公表した調達見込み金額から2025年6月19日現在調達済み額を差し引き計算しております。  
各新株予約権の詳細につきましては、2023年11月13日公表の「第11回乃至第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行、第14回及び第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」をご参照ください。

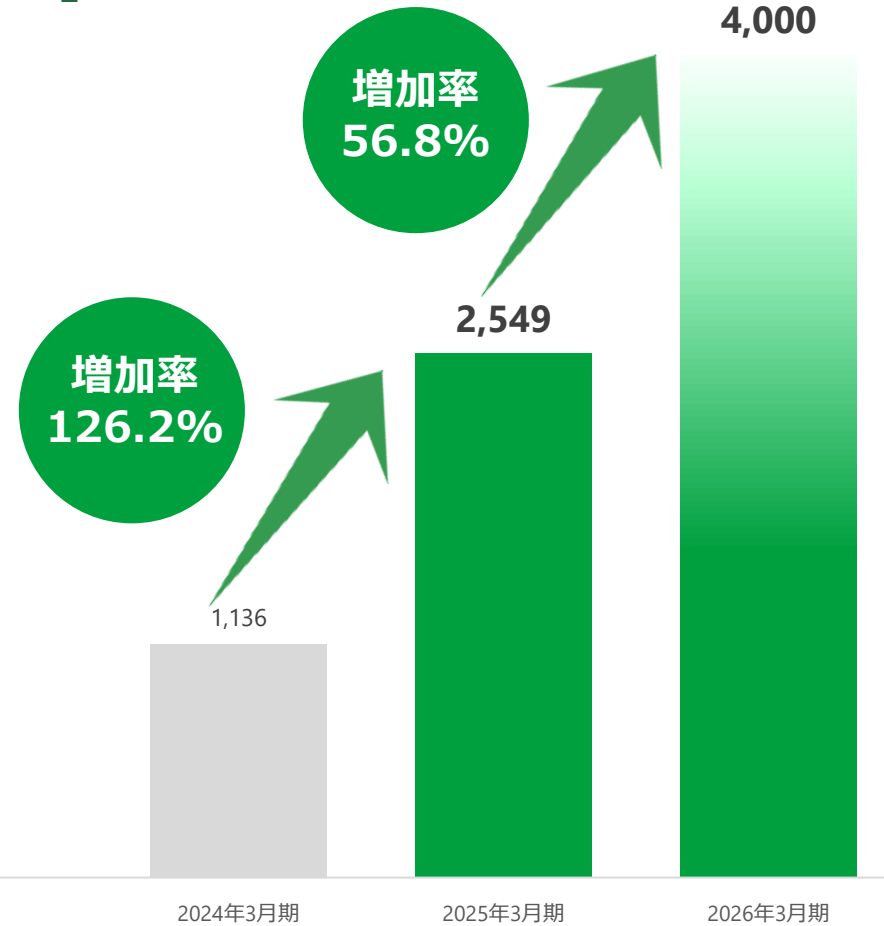
2026年3月期は引き続きトレンドをさらに拡大させ、過去トレンド期を超えるのびしろが見込まれる

(百万円)

## 過去トレンド期



## 今回トレンド期





国内市場のトレンドをとらえ拡大させることによって、**売上高、各利益は過去最高**となる見通し

	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		対前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	2,549	100.0%	4,000	100.0%	+1,450	56.8%
営業利益	229	9.0%	400	10.0%	+170	74.1%
経常利益	234	9.2%	370	9.2%	+135	57.9%
当期純利益	270	10.6%	300	7.5%	+29	10.7%

※2025年3月期実績の当期純利益には、法人税等調整額75百万円を含みます。

※2026年3月期予想の当期純利益には、法人税・住民税及び事業税までを含み、現時点での将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性が見込まれる部分について検討している段階であることから法人税等調整額は含みません。



# 今後の事業計画

Growth Strategy

「アサイーの事業展開」と「サステナブルマッチングプラットフォーム構築」の2軸で業績拡大を図る。

## アサイーの事業展開

2023年より特に顕著に表れている国内需要の盛り上がりに対して、日本におけるアサイーを用いた事業の先駆者として応えるべく、国内アサイー事業にリソースを集中させることで、最大限の供給を行う。

さらに、国内のみならず、アジアを中心とした世界に向けて、アサイーの健康価値を普及させるとともに、原料・製品を販売していくことで、大きな成長が見込まれるアジアへ事業を拡大していく計画。



## サステナブルマッチングプラットフォーム構築

アグロフォレストリーで栽培された作物をはじめとした、サステナブル商材に特化して取引するサステナブルマッチングプラットフォームの開発を行う。取引高が増加することで収益性が向上し、また、その取引高から得られる利用料も収益としていく計画。

※2023年6月30日開示時点の事業計画期間(2022年3月期~2026年3月期)内においては、本事業を別個で報告セグメントとするような規模までは想定しておりませんが、中長期的に当社の業績向上に資するものと考えております。



アサイーとヨーグルトの組み合わせを積極的に提案し、クロスセルの販売を実現させるべく、「飲む」だけでなく「食べる」目的でも家庭で簡単にアサイーを楽しめることを訴求

### いつものヨーグルトに!! #アサイーヨーグルトボウル

**Day5**

朝食や軽食にぴったり!  
ヨーグルトにかけて、フルーツをトッピング

FRUTA  
**Açaí**  
アサイーエナジー  
特濃スムージー

鉄 ポリフェノール  
オメガ3-6-9  
アミノ酸

CO2  
INTEGRAL  
891g

香料・着色料不使用 果汁83%  
主原料のアサイーベリーは、果汁に含まれません。

賞味期限 (開封前)

エナジー

ヨーグルトと合わせて  
簡単アサイーボウル!

賞味期限 (開封前)

### これ1本で #アサイーボウル

かける  
だけ  
アサイーボウル

凍らせて  
濃厚  
アサイーシャーベット

いつもの  
ヨーグルトと  
ヨーグルトアサイーボウル

本製品 1本を  
2:1で  
割って  
アサイーヨーグルト

簡単!美味しい!  
アレンジレシピは  
こちらから▶▶▶



自分でカスタムする楽しさや、家庭で手軽にアサイーボウルを作り日常的に食事として食べられる環境を提供するために2025年4月より発売を開始。





# レッドドラゴンフルーツ

## ピタヤの

## 注目度が

## 高まっている

### USD

66億2,880万

2023年の世界のピタヤ市場は42億8,770万米ドルと評価されており、2032年までに収益を拡大すると予測されている。

### 市場全体の収益

72.8%

主に中南米の原産地で消費されていたが、近年ではアジア太平洋地域において市場全体の収益72.8%を占めている。

### CAGR

4.96%

予測期間中(2023年から2032年まで)のCAGRは4.96%で拡大すると予測され、目覚ましい成長を遂げている。

### スーパーフード としての位置づけ

$\alpha$ -トコフェロールよりもベータシアニン類の方が高い抗酸化作用を示したという報告があるほどに栄養素にも注目をあつめている。

※Astute Analytica

『ピタヤ市場 - 2032年までの業界ダイナミクス、市場規模、および機会予測』

<https://www.astuteanalytica.com/ja/industry-report/pitaya-market>

お家でシリーズの中でアサイーと姉妹品である「お家でピタヤボウル」。  
色彩鮮やかで視覚的にも楽しむことができ、 $\alpha$ -トコフェロールよりもベタシアニン類の方が高い抗酸化作用を示した  
という報告があるほど、健康効果が期待される注目商品。

## Ouchi de Pitaya



簡単！美味しい！楽しい！

# お家で ピタヤ ボウル

ピタヤ×ザクロが  
この1袋で手軽に！

ピタヤはポリフェノールや葉酸等の  
栄養で知られるスーパーフルーツ。  
流水解凍し、トッピングをのせるだけで、  
簡単にピタヤボウルを作ることができます♪



別名「ドラゴンフルーツ」  
鉄やマグネシウムなどのミネラル分が豊富で、レッドピ  
タヤのビビッドなピンク色は赤色の色素であるベタシ  
アニンや、女性に嬉しい葉酸や食物繊維も含むのが特  
徴です。

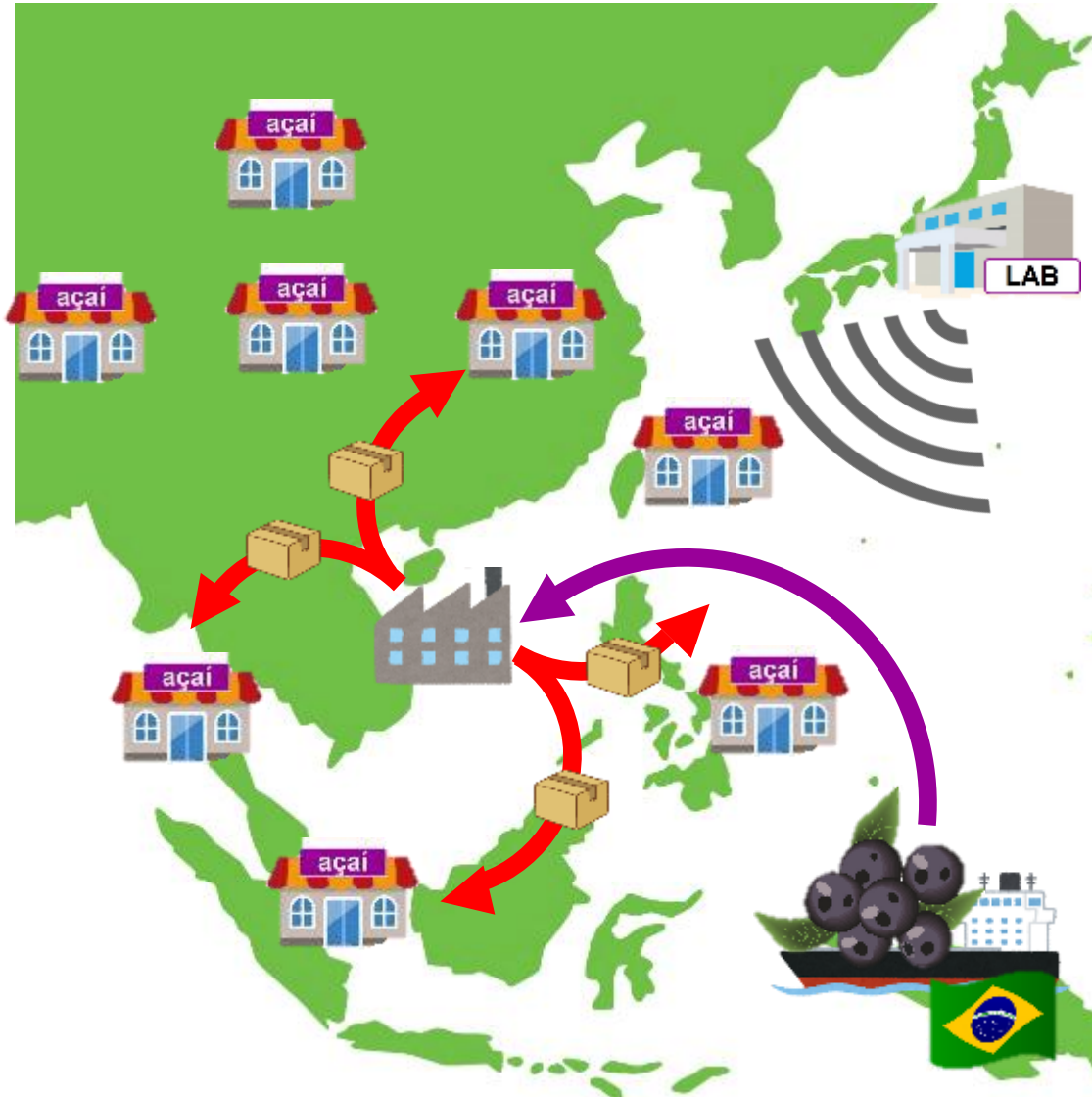


甘酸っぱくてクセになる味わいは、体も思わず欲しがるようなナチュラルなおいしさ。  
毎日のキレイと元気をチャージする、新しい習慣としてスムージータイプが新登場。





2031年3月期までにアジア市場においてアジアにおけるメインプレイヤーとなることを目指す。



## 国内でのテスト店舗展開

国内の盛り上がりに対し、日本国内で最大5店舗のOakberryブランドのテスト店舗を出店することを計画。2025年6月現在も第1号店出店に向けてロケーション・オペレーションの確認を継続中。

日本でのブレイクを基に  
更なる店舗展開へ



## 多店舗展開による市場開発

2031年3月期までに成長が見込める国に対し、アサイーが楽しめる店舗を300店舗展開を想定。展開国に合わせて、プロモーションを展開することで市場活性化。

テスト店舗出店のロケーションやオペレーション方法の確認を継続。  
また、ジョイントベンチャー設立に向けた交渉を実行中。

2023年12月

2024年4月

2024年8月

2025年6月



OAKBERRY ACAI, INCとの  
アサイーのアジア事業開発に  
向けた協議開始



テスト店舗出店に向けた  
店舗ロケーションと  
オペレーションを確認



ジョイントベンチャー設立に  
向けた交渉を開始

日本を含むアジア市場において300店舗の出店を行う目標  
(2031年3月期)は維持



※ Oakberryブランドのテスト店舗の出店につきましては、店舗の立地条件等について2025年6月現在Oakberryとの間で合意に至っておりません。

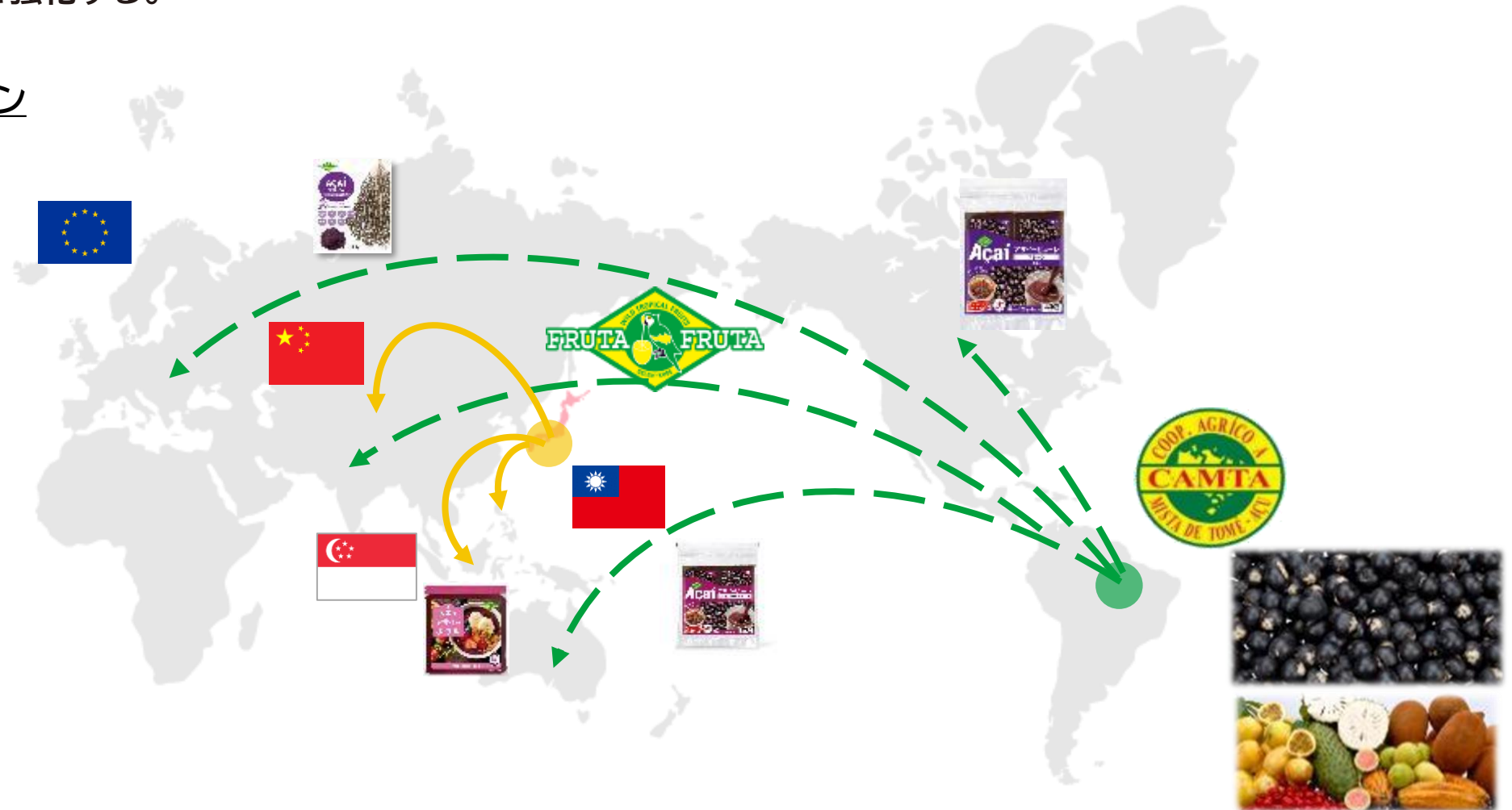
※ 詳細は2024年1月9日公表の「OAKBERRY ACAI, INCとのアサイーのアジア事業開発に向けた協議開始及び覚書締結のお知らせ」をご参照ください。

# 円安下、海外市場への輸出の取組み

円安下であることへの対策として、国内生産品をアジアマーケットへと展開していく。  
サステナブル調達の流れは世界的に加速中。当社の強みを活かし、原料、商品の両面から、  
まずはアジアへの販売を強化する。

## ゼロ・デフォレステーションへの取組み

森林破壊に関連した製品の輸入を禁止。EUで製品を販売する場合、森林破壊に関連しない証明を義務づける。



(1) 矢印・国旗は必ずしもターゲットとしている先を表すものではありません。また、商品・原料も同様です。  
今後動向を加味し、検討の後に決定してまいります。



Douyin(中国版TikTok)を主戦場にライブコマースを展開し、「定番商品の中国市場定着」「新SKU・カテゴリ展開」「サブスクリプションモデル構築」といった**中長期の成長ドライバーを創出**することを目指す。



アサイーの機能性価値で「造血効果」等によるQOL向上を、  
プロモーション活動を通して新しい健康概念あるとして定着させ、需要喚起を図る。

製品機能価値の向上



解決したい意識を満たすアサイーの機能価値  
B2C・B2Bの売上促進につながる「アサイー」の機能価値向上

自分ゴト化促進



解決意識を高めるための情報開発  
造血、他の機能検証および対策を必要としている方々への情報提供

アサイー需要喚起



ターゲット:貧血やバイオリズムの不調に悩む人(主に女性)  
臨床試験デザインを見直し、原因物質を特定中

大きく6つの特徴・メリットを有し、原料消費者と環境貢献の可視化を行う。  
プラットフォームを**2025年10月ごろサービス開始**を目指し、販売者及び購入者の円滑な取引をサポートする。

## 原料使用者と環境貢献の紐づけ

原料調達(生産者)からサプライヤー(製造)、エンドユーザー(消費者)までのサプライチェーン情報と、取引量に応じたCO<sub>2</sub>削減量を明示、記録します。



## トレーサビリティの向上

サプライチェーン情報、CO<sub>2</sub>削減量を明示し、ブロックチェーン技術を利用し、記録された取引が増加することで、プラットフォーム内での環境貢献度の数値の信憑性が高まる。  
取引に対してサステナビリティに対する信用が生まれ、「このプラットフォームで買えばサステナブルで間違いない」と認識される働きを生み出すSCOPE3に対応したプラットフォームを目指します。

## 幅広い品揃え

当社品40商材に加え、他社のサステナブル商材も取り揃える予定。  
「サステナブルに関連するものはここに来れば揃う」と認識されるプラットフォームを目指します。



## ビジネス機会創出

プラットフォームに訪れる企業との新たなネットワークを活用して、ビジネス機会の獲得や新たなビジネスモデルの創出につなげることができます。

## 製品・サービスの差別化

製品・サービスに係るCO<sub>2</sub>削減量をアピールすることで、差別化・ブランディングに利用可能です。

## PR効果、企業価値向上

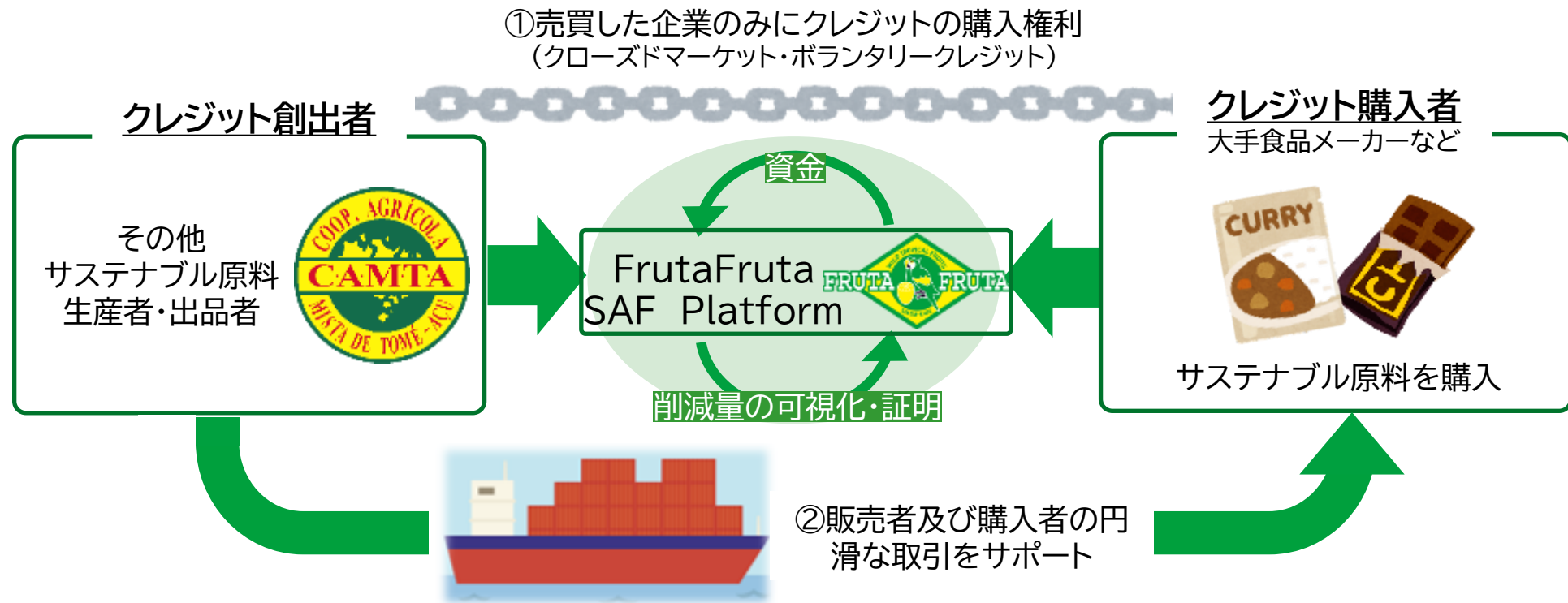
環境貢献に関するPRができると共に、企業評価調査などに記載することで、企業価値向上につなげることができます。

01

WEB3技術を活用したブロックチェーンを利用し、Co2削減量を明示・記録。  
PF内で売買した企業のみ、CO<sub>2</sub>削減量に応じたSPCOPE3に対応する削減量を明確化することで原料使用者の環境貢献度を可視化する画期的なシステム。

02

販売者及び購入者の円滑な取引をサポートするため、  
貿易代行のノウハウを有する企業とM&A・資本業務提携などの方法も検討し、サポートの体制を整備。





# CO2削減量マークの拡散

自社品からスタートし、他社品へのCO<sub>2</sub>削減量表示にまで発展しており、今後の広がりが期待できる。



- 様々な植物から成り立つアグロフォレストリーを表現
- 製品に使用しているアグロフォレストリー原料に合わせたCO<sub>2</sub>削減量を表示



# 中長期計画

Future Design

### 既存戦略

### 機能性価値訴求戦略

### アグロフォレストリーGX戦略

アサイー  
ファン

外食  
チャンネル

鉄  
ポリフェノール

HPP技術

抗炎症

造血

プラント  
ベース

EAP

CO2削減

国内需要をキャッチし業績拡大と、より大きな市場獲得への成長計画へ

#### アサイーの事業展開

- ・国内需要の盛り上がりに対して、販売、商品拡充を行い安定した供給へ。
- ・創業時の事業でもある実店舗の展開
- ・円安動向対策ともなるアジアに対して原料、製品を供給するハブとなる生産拠点の確保
- ・ライブコマースも視野に入れたアサイーの普及活動及びプロモーション
- ・アサイーの機能性研究及びPR活動

#### サステナブル マッチング プラットフォーム構築

- ・自社品だけでなく、サステナブルに関連する他社の商材も取り揃え
- ・WEB3技術を利用、売買を通じたCO<sub>2</sub>削減量を表示、記録
- ・将来的にクレジットと関連付けを計画
- ・COP30などのサステナビリティ関連イベントでのプロモーション活動



既存戦略

機能性価値訴求戦略

アグロフォレストリーGX戦略

アサイー  
ファン

外食  
チャンネル

鉄  
ポリフェノール

HPP技術

抗炎症

造血

プラント  
ベース

EAP

CO2削減

国内での業績拡大と、海外を視野に含むさらに大きな市場獲得への成長計画へ

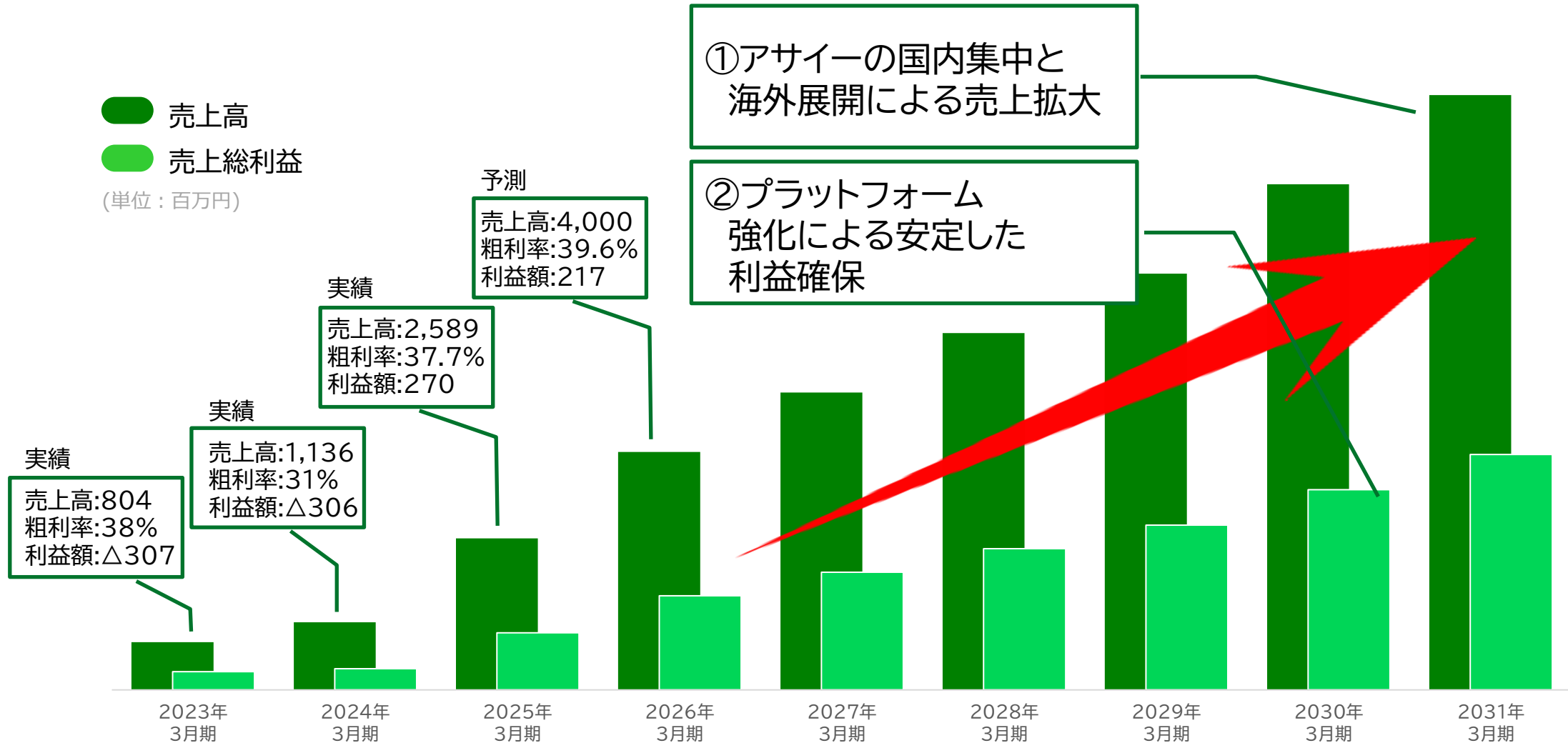
さらなる業績拡大に向けた事業展開

- ・国内需要の盛り上がりに対して、販売、商品拡充を行い安定した供給へ。
- ・サステナブル原料であるカカオ豆の調達により、責任ある調達の実現
- ・中国ライブコマースも視野に入れたアサイーの普及活動及びプロモーション
- ・アサイーの機能性研究及びPR活動
- ・創業時の事業でもある実店舗の展開

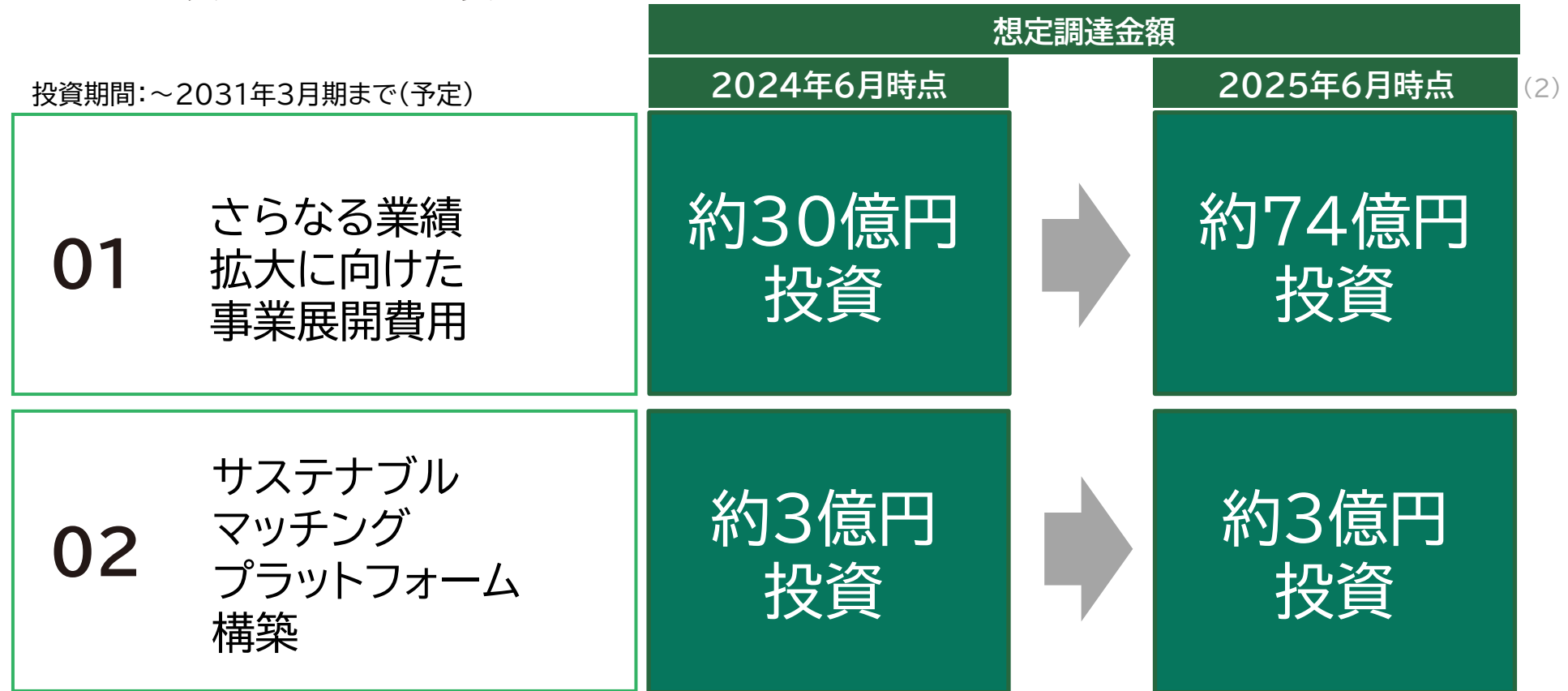
サステナブル マッチング プラットフォーム構築

- ・自社品だけでなく、サステナブルに関連する他社の商材も取り揃え
- ・WEB3技術を利用、売買を通じたCO<sub>2</sub>削減量を表示、記録
- ・SCOPE3の指標を明示化できる形を構築
- ・COP30などのサステナビリティ関連イベントでのプロモーション活動

国内アサイー事業にリソースを集中させることで売上高増収と、アサイーの海外展開による売上拡大を図る。プラットフォームでの安定した売上・利益を確保することで、中長期的な利益体質強化へ。



2025年3月期の売上高が2,549百万円(前年度比224.2%)と伸長していることも示すようにアアサイーの国内需要が大幅に増加していることを背景に、当社は本格的な国内市場の拡大をさらなる業績拡大のチャンスと捉え、調達資金の使途を一部変更し、原料調達資金に充当する変更を実施することといたしました。(1)

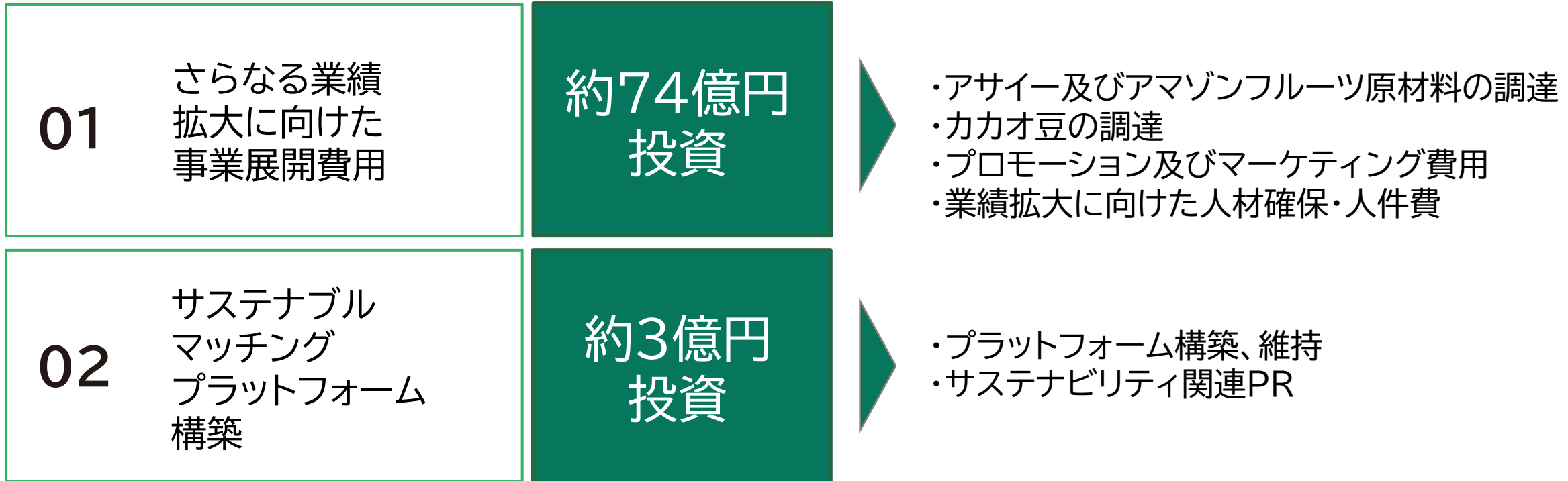


(1) 詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行、第14回及び第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」、2024年6月14日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」及び及び2025年6月13日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。  
 (2) 想定調達金額は、現状の調達金額(2025年6月13日時点で1,841百万円)及び株価動向等を鑑み7,839百万円程度と見込んでおります(2024年6月時点想定は3,365百万円)。なお、第11回及び第15回新株予約権は行使完了しております。



事業の成長のために、行使完了した第11回乃至第15回新株予約権で調達した原資をもとに、国内アサイー事業でのさらなる業績拡大、海外事業展開、プラットフォーム構築を中心に約74億円の投資を行うことで、アサイーを中心としたアマゾンフルーツの拡売、アグロフォレストリーの認知拡大を図ります。 (1)

投資期間: ~2031年3月期まで(予定)



(1)詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行、第14回及び第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」、2024年6月14日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」及び2025年6月13日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。

第11回乃至第15回新株予約権(以下、本新株予約権)による資金調達予定額及び使途の詳細は、2025年6月13日時点で以下のとおりとなっております。(1)

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
①さらなる業績拡大に向けた事業展開費用	7,489	2024年6月～ 2031年3月
②サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用	350	2024年6月～ 2031年3月
<b>合計</b>	<b>7,839</b>	

想定調達金額は、現状の調達金額(2025年6月13日時点で1,841百万円)及び株価動向等を鑑み7,839百万円程度と見込んでおります(当初想定は6,304百万円)。なお、第11回新株予約権のコミットは消滅しております。  
 なお、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。  
 行使価額が修正又は調整された場合には、本新株予約権の行使に際して出資される財産の額が変動する結果、調達予定金額は増加又は減少する可能性があります。  
 また、本新株予約権の行使期間中に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合にも、同様に調達予定金額は減少する可能性があります。

(1)詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行、第14回及び第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」、2024年6月14日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」及び2025年6月13日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。  
 なお、想定調達金額は、現状の調達金額(2025年6月13日時点で1,841百万円)及び株価動向等を鑑み7,839百万円程度と見込んでおります(2024年6月時点想定は3,365百万円)

## 01 さらに業績拡大に向けた事業展開<sup>(1)</sup>

具体的な使途	金額（百万円）
① アサイー原材料の調達+アマゾンフルーツの調達	6,689
② カカオの調達	400
③ アサイーの普及活動及びプロモーション	150
④ アマゾンフルーツのプロモーション、マーケティング活動	150
⑤ 人材確保（人件費、採用費等）	100
<b>合計</b>	<b>7,489</b>

### 変更点及び削除した項目

アサイー及びその他のアマゾンフルーツの原材料の仕入れ強化のため、原材料調達費用を6,689百万円に増額いたしました（変更前は1,443百万円）。また、当社は、高騰するカカオ豆の仕入れを強化する予定であり、カカオ豆の仕入費用として400百万円を充当する予定です。2025年11月にはブラジルパラ州ベレンでCOP30の開催が控えており、テーマの一つとしてアグロフォレストリーが挙げられております。当社のカカオ豆はトメアス式アグロフォレストリーによって栽培され、「気候変動対策の強化と、アマゾン熱帯雨林の保護や持続可能な発展」というCOP30の主テーマに沿った原材料です。サステナブルマッチングプラットフォームの計画との関連性も高く、重点原材料として位置づけ、強化を行います。当社は現在、本格的な国内市場の拡大に伴う業績拡大を図っており、原材料の仕入れ強化を優先する必要があるほか、業績拡大を支える人材及び人件費の確保が必要となっていることから、調達資金を優先的にこれらに充当し、生産拠点及び生産設備並びに倉庫確保の費用（変更前900百万円）及び出店費用（変更前422百万円）については削除し、上記のとおり原材料調達費用を増額するほか、人材確保・人件費に100百万円を充当する予定です。なお、Oakberryブランドのテスト店舗の出店につきましては、店舗の立地条件等についてOakberryとの間で合意に至っておりません。日本を含むアジア市場において300店舗の出店を行う目標（2031年3月期）は維持しており、その資金については、手元資金の状況に応じ、自己資金又は借入その他の調達等により賄う予定です。また、アサイーの普及活動及びプロモーション費用（変更前250百万円）は、アサイー及びアマゾンフルーツの普及活動、プロモーション及びマーケティング活動費用（300百万円）に変更いたします。

(1) 今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項にて開示してまいります。

(2) 減額、削除した事項につきましては、規模を縮小して実施する他、新たな資金調達、手許資金の状況に応じて自己資金の充当についても検討を行ってまいります。



## 02 サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用 (2)

具体的な使途	金額 (百万円)
① プラットフォームの構築及び維持 <sup>(1)</sup>	250
② サステナブルマッチングプラットフォームのプロモーション活動	100
合計	350

### 変更点及び削除した項目

サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用については、プラットフォームの構築及び維持費用（変更前200百万円）について、開発費用の増加を見込んでいることから、250百万円を充当する予定です。他方、サステナブルマッチングプラットフォームのプロモーション活動費用（変更前150百万円）への充当は100百万円とする予定です。

- (1) 利用企業数やユーザー数、利用料などは現時点で未定です。  
また、本資料開示時点の事業計画期間内においては、本事業を別個で報告セグメントとするような規模までは想定しておりませんが、中長期的に当社の業績向上に資するものと考えております。
- (2) 今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項にて開示してまいります。
- (3) 減額、削除した事項につきましては、規模を縮小して実施する他、新たな資金調達、手許資金の状況に応じて自己資金の充当についても検討を行ってまいります。

## 01 成長投資の進捗

### さらなる業績拡大にむけた事業展開

日常的に家庭でアサイーを楽しむことを加速させるべく、アサイー×ヨーグルトのクロスセル施策やお家でアサイーボウルSの新商品で拡大を狙う

### サステナブルマッチングプラットフォーム

2025年11月のC O P 30までのローンチを目標として、プラットフォーム開発に関するロードマップに沿って実開発を進行中

## 02 調達済み金額と資金の充当状況

(単位：百万円)

資金使途	調達予定額	資金調達額	充当額	未充当額
アサイー原材料の調達+アマゾンフルーツの調達	6,689	1,838	528	1,292
カカオの調達	400		0	
アサイーの普及活動及びプロモーション	150		7	
アマゾンフルーツのプロモーション、マーケティング活動	150		0	
人材確保（人件費、採用費等）	100		0	
プラットフォームの構築及び維持	250		10	
サステナブルマッチングプラットフォームのPR	100		0	
<b>合計</b>	<b>7,839</b>	<b>1,838</b>	<b>546</b>	<b>1,292</b>

(1)今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項及び、適時開示にて開示してまいります。

### 03 各新株予約権行使の進捗状況 (1)

新株予約権	発行数 (個)	行使数 (個)	未行使数 (個)	行使割合 (%)
第11回新株予約権	182,400	182,400	0	100.0
第12回新株予約権	182,400	0	182,400	—
第13回新株予約権	182,400	0	182,400	—
第14回新株予約権	187,000	0	187,000	0
第15回新株予約権	187,000	187,000	0	100.0
<b>合計</b>	<b>921,200</b>	<b>369,400</b>	<b>551,800</b>	<b>40.0</b>

第11回新株予約権は、2024年9月に全個数の行使が完了されました。行使完了についての詳細は2024年9月2日公表の「第三者割当による第11回新株予約権(行使価額修正条項付)の月間行使状況及び行使完了に関するお知らせ」をご参照ください。

第15回新株予約権は随時行使型新株予約権であり、行使期間を2023年12月18日(当日を含む。)から2030年12月17日(当日を含む。)までとしています。また、本新株予約権は2025年2月に全個数の行使が完了されました。行使完了についての詳細は2025年2月3日公表の「第三者割当による第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の月間行使状況及び行使完了に関するお知らせ」をご参照ください。

各新株予約権の詳細につきましては、2023年11月13日公表の「第11回乃至第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行、第14回及び第15回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」、2024年6月14日公表の「資金用途の変更に関するお知らせ」及び2025年6月13日公表の「資金用途の変更に関するお知らせ」をご参照ください。

(1) 2025年6月13日時点



# サステナビリティの取組み

Appendix.



SDGsやESG関連プロモーション、及び研究開発でアプリケーションの付加価値向上と調達最適化を進め、企業価値の源泉は『ヒト(人材)』であり、人材を資本として捉え、人材価値の最大化へ向けた取り組みを行う。



## 人材獲得

効果的に優秀な人材を見極め、引き付けるための採用戦略を策定。社内環境の改善整備で定着を図る。



## プロモーション

サステナビリティレポート2023を公開。今後求められるコーポレートブランディングの強化。



## 研究開発

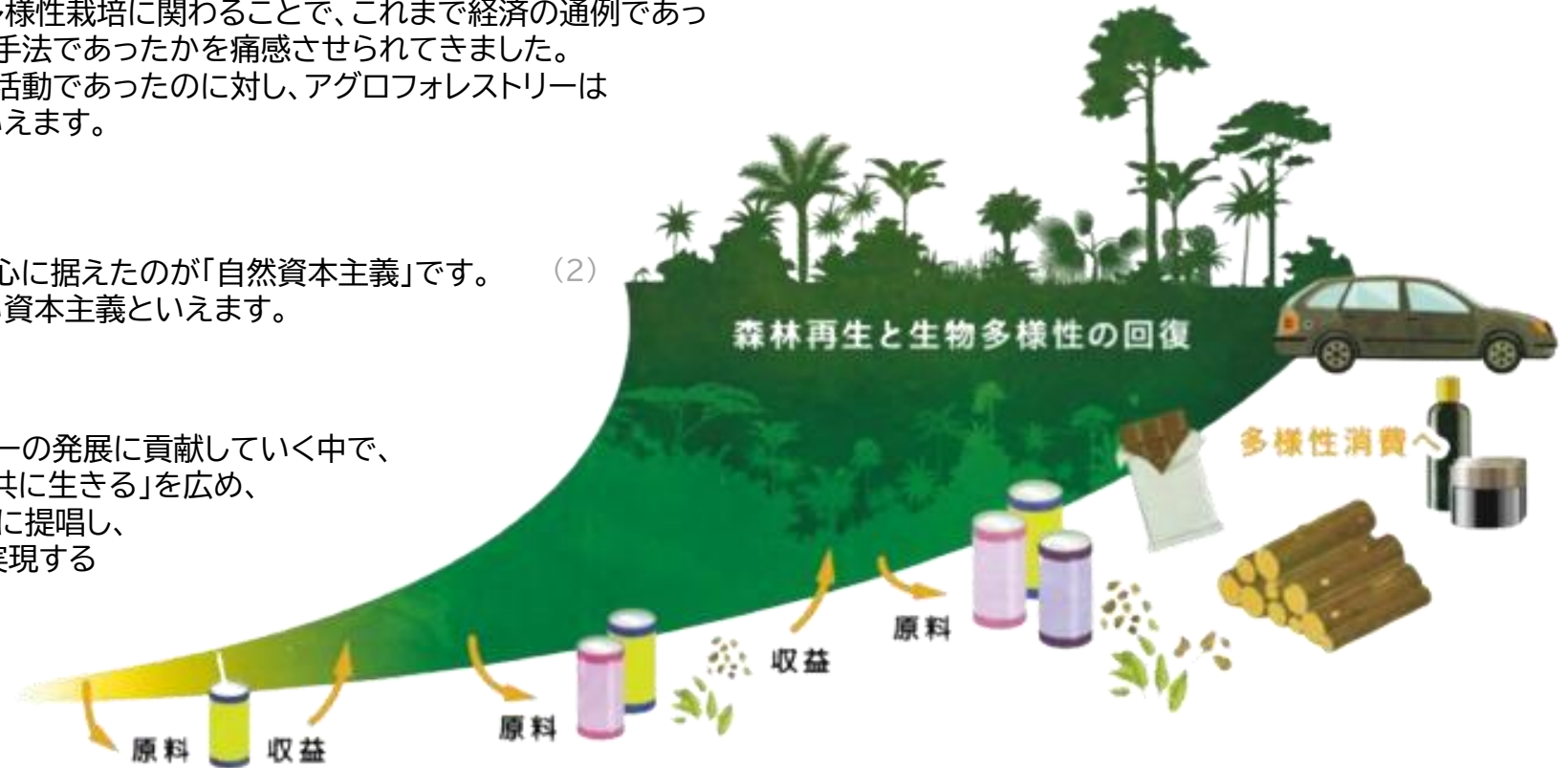
アサイーの機能性研究を継続。アマゾンフルーツの品質を保ちつつ、アプリケーションの開発も実施。

## アグロフォレストリー原料の使用を通して、累計450,000トンのCO2削減を目指します。 (1)

フルッタフルッタでは、アグロフォレストリーの多様性栽培に関わることで、これまで経済の通例であったモノカルチャー栽培が如何に自然と逆行する手法であったかを痛感させられてきました。そして、従来の農業が自然資本を搾取する経済活動であったのに対し、アグロフォレストリーは自然資本を保全し回復させる未来型の農法といえます。

従来の資本主義に対し、限りある自然資本を中心に据えたのが「自然資本主義」です。 (2)  
その生産性の改善と回復に重点を置いた新しい資本主義といえます。

私たちは、事業活動を通してアグロフォレストリーの発展に貢献していく中で、アグロフォレストリー概念ともいえる「自然と共に生きる」を広め、この新しい経済メカニズムを日本国内及び世界に提唱し、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会を実現することを目指し、上記目標設定と致しました。



(1)目標値は、中長期計画で見通している2031年3月期までの売上高(取引高)から算出したアグロフォレストリー原料の調達量に基づき、そこから得られるCO<sub>2</sub>削減量を創業時から累計して算出しています。  
なお、2025年3月末時点では65,000tを削減している見込みです。

(2)自然資本:植物、動物、土壌、鉱物、水、大気など、自然によって形成される資源のこと



# リスク情報

Risk Information



成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性のある、主なリスク及び対応策は以下の通りです。(1)

内容	リスク情報	顕在化の可能性 / 時期	顕在化した場合の影響度	対応方針
<p>アマゾン フルーツの 仕入れ</p> <p>CAMTA 依存について</p>	<p>当社のCAMTAからの仕入比率は、製品売上の7割以上、商品売上の9割以上。当社事業活動は、CAMTAからの仕入を前提として行われています。</p> <p>原材料価格の引き上げ、本地域における自然災害などで、CAMTAから計画通りに仕入が出来ない場合、当社の事業に影響を与える可能性があります。</p>	中/中長期	中	<p>アグロフォレストリーの特徴である多様性栽培により、特定作物の被害を他の作物で充当することが可能です。</p> <p>非常時に対応可能な最低限の安全在庫計画により、原料の確保、製品の備蓄を実行し、不測の事態にも在庫確保を努めます。</p>
為替相場の変動について	<p>当社は、CAMTA及び海外OEM工場への製商品代金の支払いはドル建てで行っており、為替相場の変動の影響を受けます。</p> <p>為替相場の変動が短期間に乱高下した場合には、当社の事業に影響を及ぼす可能性があります。</p>	高/短中期	高	<p>ドル調達の実施を検討しています。</p> <p>最低限の値上げ対策を検討します。</p>

(1)その他のリスクについては、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

本資料におけるご説明に含まれる将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされ、もしくは算定されています。また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や国内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社により何らかの行動を勧誘するものではありません。日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。投資のご検討にあたっては、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

次回の本資料更新は2026年6月頃の開示を予定しております。

【お問合せ先】  
IR室  
[ir@frutafruta.com](mailto:ir@frutafruta.com)  
公式お問い合わせフォーム  
[https://www.frutafruta.com/ir\\_info/ircontact/](https://www.frutafruta.com/ir_info/ircontact/)

